

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2008年11月中旬から12月下旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊は、断続的となる。
 (2) 漁場: 釧路～襟裳岬沖に漁場の残る可能性があるが、散発的である。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: ゆるやかに減少し、11月中旬～下旬は中位水準、12月上旬には低位水準となり、終漁する。
 (2) 漁場: 11月中旬～下旬は宮古～金華山沖が漁場となる。12月上旬は、三陸南部の気仙沼～金華山沖が漁場となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 11月中旬には高位水準となり、11月下旬まで高位水準で推移する。その後は減少し12月上旬に中位水準、12月中旬～下旬は低位水準となる。
 (2) 漁場: 11月中旬～12月上旬は、常磐北部～南部にかけて漁場ができる。12月中旬～下旬は、小名浜～犬吠埼沖に漁場が残る。

2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	断続的				
	漁場	釧路～襟裳岬沖				
三陸海域	来遊量					
	動向	中位減少	中位減少	低位減少		
	漁場	宮古～金華山沖	宮古～金華山沖	気仙沼～金華山沖		
常磐海域	来遊量					
	動向	高位増加	高位減少	中位減少	低位減少	低位減少
	漁場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	小名浜～犬吠埼沖	小名浜～犬吠埼沖

3. 漁況の経過概要

(10月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬をやや上回ったものの、前年を下回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半、一時的に来遊量が増加したものの、再び減少した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石沖、厚岸～釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南南西 10 海里付近(表面水温 12℃)。27 日夜に小型船が 20 隻程度操業。群は薄く、数トン～20トン程度漁獲。

厚岸南～釧路南東沖の 15～70 海里付近(表面水温 12～14℃)。22 日夜までと、27 日以降、小型船主体で大型船も数隻操業。大型船で 45～100トン以上漁獲。

襟裳岬南 60～南南東 100 海里付近(表面水温 14～15℃)。22～23 日夜と 25 日夜に大型船が数隻操業。95～100トン以上漁獲。

(3) 魚体

29～30cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.5～3 割程度。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬をやや下回ったものの、前年並みの高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期全体を通して来遊量は安定していた。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古～気仙沼沖と女川～金華山沖であった。

宮古北北東～気仙沼東沖の 10～40 海里付近(表面水温 14～17℃)。21 日夜と 26 日夜以降、小型船 15～30 隻程度と大型船数隻～10 隻程度操業。大型船で 80～100トン以上漁獲する船が多かった。

女川東～金華山東南東沖の 10～30 海里付近(表面水温 16～21℃)。連日大型船主体に操業。70～100トン以上漁獲する船が多かった。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年、前旬を上回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、22 日夜に一時的に来遊量が増加したが、その後減少し、27～28 日夜に再び増加した。

(2) 漁場

常磐海域の主漁場は、金華山沖であった。

金華山南 20 海里～東南東 40 海里付近(表面水温 17～21℃)。22 日夜と 25～28 日夜に大型船が数隻～20 隻程度操業。70～100トン以上漁獲。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。